

道徳指導案

日時 平成29年10月27日(金) 公開授業Ⅰ
生徒 3年B組 男子13名 女子19名
授業者 足立英世
授業場 中学校3年B組教室

1 主題名 「かけがえのない命」 【D 生命の尊さ】

2 資料名 「白紙のドナーカード」(『中学校問題解決的な学習で創る道徳授業』明治図書 より)

3 本時のねらい

教材の登場人物が置かれた状況をきっかけに、自分や身近な人、その他の人間の「命」について考え、議論することを通して、生命を尊重することの意義を深くとらえ、自他の生命を大切にしようとする態度を育てる。

4 主題設定の理由

(1) 主題・教材

中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編【D 生命の尊さ】

『生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重すること。』

中学校の発達段階では生命の連続性や有限性についての理解に加え、自分がここにいることの不思議(偶然性)や社会的関係性や自然界における他の生命との関係性などの観点から生命の尊さを考えることができるようになっていく。しかし、自他共に概ね健康な身体で日々の生活を送る中学生にとって、自分がここに生きているというありがたみや、他の生命がそれぞれかけがえのない存在であるという感覚を抱く機会は決して多くない。中学校最終年次の段階として、「命は大切なものである」という原点に終始するのではなく、生命そのもののとらえ方、具体的判断場面における自分の選択に思考を巡らせ、他者の見方や考え方を踏まえて、改めて自分の考えを持つことを求めたい。

指導に当たっては、生命を重んじていない判断や行為を言語化させ、その中で「生命」についてのとらえ方の差異を明らかにする。また、具体的判断場面での自他の選択を見つめ、正解がない問題において答えを導き出すことの困難さにも気付かせたい。

今回扱う教材「白紙のドナーカード」(『中学校問題解決的な学習で創る道徳授業』明治図書)の概略は以下の通りである。

- ① 最愛の妻が事故に遭い、ほぼ脳死状態になった。
- ② 夫である「私」は、以前妻と臓器移植について話し合い、互いに「自分の場合は他の人に命をつなぎたいと考えるが、パートナーがその状態になったときは、どうすればよいかわからない」という判断を持っていたことを思い出す。
- ③ 脳死が宣告されるが、見かけ上それ以前との差はなく、心臓は動き続け、愛する人の体は温かい。
- ④ 臓器移植をするかどうか、白紙のドナーカードを見つけるが、答えは出ない。

教材における「私」や妻に、ドナーとして臓器提供を選択する義務はない。それでも悩み続ける「私」の思いをしっかりと押さえさせたい。また、「生命」について考えさせる必要がある。また、臓器提供の意思表示に関する事、どれだけの人が臓器提供を待ちわびているかということ等を理解することも不可欠であろう。したがって、補助資料を活用した共通理解の場を設けることとする。

以上について踏まえることで、「生命」を生物学的な機関としてのみならず人間の存在としての哲学的な見方ととらえたり、自分と他者、あるいは近親者と全くの他人で比較したりと、多面的・多角的に考えることができる教材である。

(2) 本時で目指す児童・生徒像

夫である「私」が教材の最後まで出せていない「答え」のあり方に対して、ドナー提供をする側や受ける側の立場から考え、議論することを通して、「命とは何か」「命を大切にすることとは」「自分の命と他人の命」「生きることと死ぬこと」といった視点で考え、「生命」という価値そのものや、価値を支える価値観を多面的・多角的に考え、人間としての生き方へとつなげていく姿

(3) 指導観

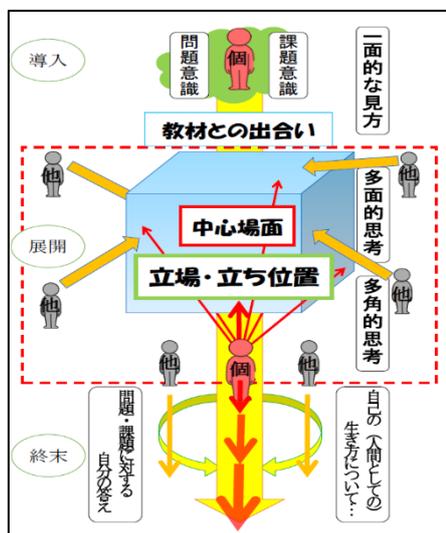
以上を踏まえ、本時における「見方・考え方」と「対話的な学び」との関係性を整理し、研究に関わる具体的な手立てを以下に述べていく。

本時における「見方・考え方」と「対話的な学び」との関係性

本時における一面的な見方

これまでの教育活動や生活経験の中で培われてきた価値観をもとに表出される「生命」に関する考え。

個の確立（一面的な見方の発揮）を、主にA-①、②で引き出していく。



導入における「空所」「ずれ」「テーマ」等の提示～A-①

本時の教材には、ドナー登録制度についての正しい知識・理解が事前に必要となる。したがって、教材に触れる前に「臓器提供意思表示説明リーフレット（日本臓器移植ネットワーク）」を提示し、これまで抱えてきた臓器移植に関する制度、実態についてのイメージとの「ずれ」を把握させる。

また、これと併せて「生命」についての考えを問う（「テーマ」の提示）。これにより、ねらいとする価値を考えさせるための導入と同時に、本教材に向かうための下地を整えることができる。

立場・立ち位置を明確にした発問の吟味～A-②

★（資料通読後）中心発問

「あなたが「私」の立場なら妻（パートナー）のドナー登録をしますか？」

生徒に対しては通読前に「主人公がある大切な物事について判断できずに終わる話」であることと、自分がその立場であった場合の判断を求めたいということを伝えておく。そして、通読後に改めて具体的な文言を入れて発問することで、問題の所在や主人公への感情移入も含めて、生徒が確と判断する準備ができると考える。

ここでの選択は「このままドナー登録をしない」「妻に代わりドナー登録をする」の二者択一である。その後の細かな判断（「心停止するまで・・・」「気持ちの整理がついてから・・・」）についての意見は受け止めつつも、大別にとどめておくことで論点を明確にする。

「私」の立場になるということは、妻（家族）への愛情はもとより、妻がドナー提供に進んで協力したいという意向をもっていったこと、その一方でパートナーである夫が同じ立場になってしまった際は判断しがたいと言っていた点などを踏まえる必要がある。その上で、自分が今まさに判断を迫られている立場として、「愛する者の『命』」、そしてA-①で明確になった「ドナー提供を待つ側の人の『命』」の実際を念頭に置いて、一面的な見方を働かせることができるようにする。

次に、多面的・多角的思考を、主に手立てIで引き出していく。

立場・立ち位置の転換を図る「補助発問」「問い返し」～I

★補助発問

「あなたやあなたの家族がドナー提供を待つ身なら、『私』にどんなことを望みますか？」

「妻はなぜ『(あなたが脳死になったら)どうすればいいかわからないね』と言ったのでしょうか？」

★問い返し：㊦～㊧を中心に生徒の発言や記述をもとに講じる。

※教科論参照

中心発問によって大別される二択は、全体交流の流れ次第でどちらかに偏ることが予想される。そのときの大勢に鑑み、補助発問を使い分ける必要がある。

まず、目の前に横たわる妻を大事に思い、ドナーとして臓器提供するために生命活動を止めることはできないという意見に対して、ドナー提供を待つ側の立場に考えを移す発問を講じる。家族愛の道徳的価値に照らして判断する生徒が多数現れると推測できるが、それは自分や自分を取り巻く人々だけのことではない。自分に近い人と重ねながら判断の指針を探ってきたところに、㊦役割取得や㊦可逆性、㊧普遍性を問い返していくことにより、生命を尊ぶという基準や優先順位の有無に関して議論され、多面的な思考がなされていくと考える。

また、すぐにドナー登録に踏み切ることを選ぶ生徒が多数を占める展開もあり得る。しかし、その意見の中には、熟考せず（できず）に「数多くの人間を救える」という事実を選んでいる場合が懸念される。最終的に選択する判断はともかく、主人公が苛まれている人間としての葛藤について簡単に見限りをつけさせないための発問を講じたい。具体的には、主人公夫婦の回想中の会話を用い、自分とパートナーとでは判断が必ずしも同じにならないということに注視させる。割り切れないでいる二人の心情にリライトすることが生徒の判断の揺さぶりにつながり、そこで生まれる生徒間の感覚のずれが、価値やそれを支える価値の多面性に気付かせるであろう。

価値の一般化を促す発問～B-①

自己と向き合う時間の工夫～B-②

★発問「あなたが考える『命を大切に理由』として、決して譲れない事は何か？」

★書く時間の設定

生命の尊さについて、授業全体を通して高まった「見方・考え方」をもとに一般化して考える場面において、自分はもとより人間としてあるべき考えを選択するための発問を講じる。なお、この発問において引き出す「命」についての考えとは、生命の有限性や連続性、偶然性等、様々な視点が考えられ、生徒が特に重んじようとする角度から捉えればよい。

発問時は生徒自身の生き方に直接関わらせた問いかけから考えを持たせ（多角的思考）、全体で交流していく。その中で自他の比較を通して、自分が抱いた「命について譲れないこと」に視点が補填されたり、観念に複雑さが増したりし、自身の価値観を踏まえた「人間としての生き方」の考えをもつことができるであろう。

また、自己と向き合う時間として書く活動を設定することで、本時における自分の思いや考えを整理することができるようにする。

5 本時について

(1) 本時の展開 (○発問, △補助発問 (問い返し), □指示・説明)

学習活動	主な働きかけ・手立て	【評価】 個に応じた指導 (▲)
<p>1 本時のテーマが「命」であることを理解するとともに、臓器移植に関する知識を押さえる。</p> <p>〔「日本臓器移植ネットワーク」より〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脳死とは、治療による回復はなく、人工呼吸器等がなければ心臓停止する状態 (植物状態→回復見込み有) ・心停止後では提供できる臓器の種類が半以下になる ・臓器提供で1人が救うことができる最大人数11人 ・移植待機者13000人のうち、1年間で移植を受けられる人2% 	<p>○「ドナー」という言葉からどんなことを連想するだろうか。</p> <p>□臓器移植についての資料を読もう。</p> <p>□教材の主人公がある判断ができずに悩んだまま終わるので、その理由に注意しながら読もう。</p> <p style="text-align: right;">A-①</p>	<p>・TV画面に「臓器提供」に関する知識のまとめを表示</p>
<p>2 教材の主人公「私」が妻のドナー登録について判断に悩んでいる理由を押さえ、彼の立場からどのような選択をするべきか話し合う。</p> <p>〔ドナー登録をする〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの人の命が救えるのなら…。 ・妻も元々、登録の意思はあった。 ・妻の気持ちを汲むことが大切だ。 <p>〔ドナー登録をしない〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目の前にいる姿を見れば、そんな決断はできない。 ・所詮見知らぬ他人の命 義務はないし…。 ・本当に臓器提供を望んでいたのか…。 	<p>○「私」はどんな思いのはざままで迷っているのだろうか。</p> <p>○あなたが「私」の立場なら、妻 (パートナー) のドナー登録をするだろうか。</p> <p style="text-align: right;">A-②</p> <p>△部分的でも、提供するということは登録の意思があるということかな。</p> <p>△心停止を待つということとは大多数の人の助けにはならないが、それでも登録するのかな。</p>	<p>・資料、WS 配付</p> <p>▲条件付けをして意見を発表する生徒が増えてきた場合、補助発問によって「する」「しない」に大別し、学級全体の考えの状況を整理する。</p> <p>【観察・発言】</p>
<p>3 妻の思いや、ドナー提供を待つ人々の願いにも考えを巡らせながら、「命」のあり方や捉え方、扱い方等について発表する。</p> <p>〔「あなたや～」の補助発問を講じた場合〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すぐに登録して欲しい。 ・相手にも大切な人がいる。無理強いはできない。 <p>〔「妻は～」の補助発問を講じた場合〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やはり大切な人の心臓を止める判断はできないから。 ・人を殺すような指示を医師にすることが怖いから。 <p>〔各種補助発問を受けて〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・命は救える数が大切？ 関係の深い人だけ救えばいい？ ・脳死だから「死」？ 心臓？ それとも話せないから…？ ・意思を尊重することは命を大切にしていること？ ・他人に臓器を使ってもらえれば、その人は別の身体で「生きている」？ ・「生きる」ってなに？ 「死」ってなに？ 	<p>△あなたがあなたの家族がドナー提供を待つ身なら、「私」にどんなことを望むだろうか。</p> <p>△妻はなぜ「(あなたが脳死になったら) どうすればいいかわからないね」と言ったのだろうか。</p> <p>※問い返し：㊸, ㊹, ㊺, ㊻, ㊼を状況に応じて講じる。</p> <p style="text-align: right;">手立て I</p> <p>□ペアや班で交流し、自分の考えを伝えたり友人の考えを聞いたりしよう。</p> <p>△事前アンケートの結果と異なっている点は、なぜこのように表れているのかな。</p>	<p>▲発表に消極的な生徒には、他の生徒の意見との共通点・相違点に言及するよう促す。</p> <p>【観察・発言】</p>
<p>4 自分が考える「命」について大切なことを記述し、発表交流を通して人間として大切にすべき「命」に対する考えを持つ。</p> <p>・誰にとっても一度きりのものなので… (有限性・一回性)</p> <p>・人に生きていてほしいと思われているから… (周囲の希望・連続性)</p> <p>・同じ人は過去にも未来にもその人しかいないので… (偶然性・唯一性)</p>	<p>○あなたが考える「命を大切に理由」として、決して譲れないことは何だろうか。B-①</p> <p>□ワークシートに記述しよう。B-②</p> <p>△それは、いつでも、どこでも、だれの命についても言えることだろうか。</p> <p>□本日の授業で一番考えたことを中心に、振り返りシートに記述しよう。</p> <p>・教師説話 または 振り返りの発表</p>	<p>▲自分の言葉で紡ぐことが難しい生徒には、教材内で取り上げてきた登場人物の行為を引用して説明することを促す。</p> <p>【記述・発言】</p>